

第3次一宮市公共交通計画について

3月市議会の一般質問(3/6)「第3次一宮市公共交通計画策定の延長について」(シャトル854)で、公共交通計画策定が延長なった理由、策定スケジュールを記載しました。そして、第37回一宮市地域公共交通会議(2023,3,23)が開催されました。その会議で配布された資料の一部を紹介します。

●市内バス路線

- i-バス 計6コース(一宮、尾西北、尾西南、木曾川・北方、千秋町、大和町・萩原町) 2022年度利用者数 **193,967人**
- 路線バス 計11路線(起、川島、岩倉、古知野、宮田、江南団地、丹陽、光明寺、深夜バス・起、深夜バス宮田、一宮イオン木曾川線)、**3,601,804人**
- i-バスミニ 停留所数45 **635人**



●公共交通に関する住民懇談会の開催結果

- 北方町連区(1回目)2023,1,18(水)
- 木曾川町連区(1回目)1,22(日)
- 萩原町連区(1回目)2,19(日)
- 大和町連区(1回目)3,10(金)
- 北方町連区(2回目)3,19(日)
- 木曾川町連区(2回目)3,19(日)

●新しい計画で検討する内容

- 移動したい場所の変化 大型商業施設、クリニック開院など、公共交通ネットワークから離れた郊外に行きたい場所が増加
- 公共交通事業者の変化 利用者の減少が続き、賃上げなく維持できているが、減便や再編の必要性が高まっている
- 公共交通ネットワークの質の向上 既存路線の見直し要望への対応、方法を検討
- 移動制約者の外出支援施策の充実 自治体DXと地域DXの活用、路線バスでは対応できない移動ニーズ、i-バスミニの見直し



●第3次一宮市公共交通計画骨子(素案)

- i-バスミニのリニューアルによる外出支援(目的地の増設) バス停以外の目的地を追加、既存タクシーを活用した買い物支援や通院支援の拡充
- 地域主体の新しい交通による移動ニーズへの対応

既存の公共交通の改善、市と協議会の役割分担ルールの明確化、バスを活用した地域コミュニティの活性化

●第3次公共交通計画の策定スケジュール(案)

- 地域懇談会開催6月まで、パブリックコメント10月、計画最終案12月

- *第3次公共交通計画は1年間延長して2023年度内に策定されます。免許証返納者がさらに増える中、i-バスミニの見直しなど進め、病院や買い物にも出かけられるよう、地域で安心して暮らしていけるよう、住民の声に耳を傾け計画の策定を進めてほしいですね。



■市民の声

一宮で学校給食費を無償にしてほしいと思います。4月から給食費は小学校1回250円が285円に、中学校285円が325円に上がりました。今年に限り少し補助がありますが、来年から値上げの金額となります。物価高騰が続き給料も上がらず暮らしが大変です。全国で給食費が無料になる市町が増えていると聞いています。

- *全国で254の自治体が無償化実施しています。青森市(人口27万人)など大きな自治体も無償。党京都葛飾区(46万人)、千葉県市川市(49万人)などでは来年度から無償です。

一宮市で2024年度から小学校285円、中学校325円に。小学生、中学生2人の家庭で月20食とした場合、5,700円+6,500円=12,200円となり子育て世代にとっては大きな負担です。

ぜひ一宮でも学校給食無償化実現させましょう。



■市民の声

道路交通法の改正で4月1日から自転車ヘルメット着用が努力義務になりました。ヘルメットを購入したいと思いますが、まだヘルメット購入の補助はあるのですか。

- *2023年度もヘルメット購入費用の補助はあります。

- 申請受付期間 2023年4月3日~2024年2月29日(木) 予算の範囲内
- 補助対象者 全年齢 2021,2022年度に補助金の交付を受けてない方
- 補助金額 ヘルメット購入費用の2分の1、上限2,000円
- 問い合わせ先 一宮市総合政策部市民協働課(本庁舎6階) ☎28-8671



読者のみなさんへ 次回のシャトルは休ませていただきます。

愛知県議会議員選挙の結果について(敬称略)

候補者	得票数	得票率(%)
いたくら正文	7,355	7.21
高橋正子	18,537	18.19
きとう俊郎	15,436	15.14
カンベ健太郎	15,160	14.87
平松としひで	13,754	13.49
佐藤ひでとし	12,385	12.15
中村雄吾	9,943	9.75
イワムラ進次	9,329	9.15

愛知県議会議員選挙が4月9日投開票で行われました。日本共産党からはいたくら正文が立候補し、全力で訴えましたが、当選に至りませんでした。多くの方から寄せられたご支持・ご支援に感謝いたします。

市議会議員選挙でも、日本共産党の政策実現を目指します

市議会議員選挙でも、大軍拡・増税ストップ、賃金・年金のアップ、物価高騰対策を進めてほしいという国政での課題を訴えていきます。また、教育・福祉の充実や公共交通の充実、学校給食費や18歳までの医療費無料化、高齢者難聴の補聴器購入補助などの自治体で充実していく政策を訴えていきます。

この4年間でも、様々な施設の廃止、市民負担の増加、市内での物流倉庫の建設ラッシュなど、暮らしにくい市政が進んでいます。これまでの市政を変える、市民の声が届く議会の実現のために取り組んでいきます。

賃金・年金引き上げの物価高騰対策、平和を求める声

地域の方から、「年金引き下げと物価高騰でとても暮らしていけない」「賃金が上がらないから文化的な生活を送る余裕がない」「子どもを育てる経済的余裕がない」「戦争だけはしないでほしい」などの声をお聞きします。

国政の話ではありますが、地方自治体として国に声をあげることも、市民生活を支える施策を行うこともできます。

一宮市は、中核市となって権限も増え、交付金も増えています。しかし、福祉タクシーの対象拡充も生涯学習バス廃止の予算によって行われるなど市民生活を支える予算が増えています。暮らしを支える施策を進めていく必要があるのではないのでしょうか。

物流倉庫の増加で、防災や子どもの安全、くらしの侵害が

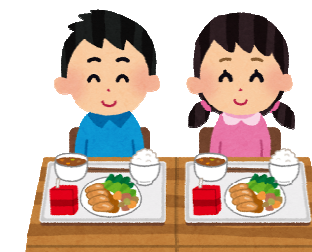
千秋町の浅野羽根団地で計画されている物流倉庫のみならず、市内全域で物流倉庫の建設が進められています。水害への防災の面、トラックなどの交通量増加による子どもの安全の面、市道を大型トラックが深夜にも通行することによる騒音・振動などによるくらしの侵害の面など、大きな問題があります。浅野羽根団地のように住宅密集地に隣接して冷蔵冷凍倉庫が建てられるのはさらに健康被害の問題もあります。

税収増加につながる部分はあっても、事業の本社が他自治体にある場合には限定的になりかねません。地域の産業を振興していくことに力を入れていくべきではないのでしょうか。

学校給食費の無償化、18歳までの医療費無料化の実現を

小学生や中学生をお持ちのご家庭に伺うと、学校給食費の無償化や医療費窓口負担の無料化を求める声をいただきます。全国で日本共産党の地方議員が市民の願いを届け、254もの自治体で実現してきています。

しかし、一宮市は無償化するどころか、学校給食費の値上げが予定されており、1学期は据え置くものの、2学期から値上げとなることに不安の声をいただきます。インフルエンザ予防接種の補助等も含め、子育て世代を応援する施策が必要です。



地域の公共交通の充実を実現する、市民の声が届く議会を

地域からよく出される声の一つが公共交通の充実を求める声です。高齢者の方からは、運転免許証を返納したら、買い物にも病院にも役所に行くにも困ってしまうという声がだされます。

高齢者も含め、全世代が活用できる公共交通の充実が必要です。そしてそれは利益の有無ではなく、住民の福祉の増進の視点で取り組まれるべきです。

免許を返納したり、けがをしたりして運転ができなくなった時にも公共交通が充実していれば、買い物も通院も役所への手続きにも困りません。暮らしを支える公共交通の充実が必要ではないのでしょうか。

市内には、バスまで遠く使いづらい地域などが多数あります。日本共産党は公共交通充実を求める市民の声をこれまでも取り上げて、市民の願いを実現してきました。

市民の声、願いが届く市議会の実現に、みなさんの力をお貸しください。



(わたなべさとし)